

招き猫の風呂敷もバッグにして～フランスで日本の「風呂敷」が流行の兆し

By 岩澤 里美 - 2014-11-10



いいね! 41 G+ 1 ツイート B! 1 LINEで送る ITT チェック

「とてもシック～！」と、フランスの大人や子どもが近頃、日本の風呂敷に関心を持っている。1枚の四角い布で物を包んだりバッグを作って使ったりすれば、買い物で使うプラスチック製や紙製のバッグを減らせる。なんてエコロジカルなのだろう！そんな動機から、家で試してみる人もいるし、風呂敷講座に参加する人もいる。

しかし、フランスの人たちは本当に風呂敷に興味があるのだろうか。半信半疑だった筆者は、パリで定期的に関わっている講座を見学してみた。そこには、親子連れや1人で参加した女性たちが集まっていた。参加者たちは、みな真剣。そして形ができあがるたびに、驚きと満足気な表情を見せていた。

「風呂敷のことを知っている人は、本当に増えています。以前に比べて、そういう人たちにたくさん会いますね。この講座の参加者は、興味があるけれど使い方については知らない人たち。そして、使い方を少し知っている人たちです。2時間で15通りの包み方を紹介しています」



風呂敷講座の参加者（パリのギメ東洋美術館にて 著者撮影）

そう語るこの講座の講師オーレリー・ル・マレック(Aurélie Le Marec)さんは、フランスで風呂敷を広めている第一人者といっていい。講座は、数回参加して学ぶというより、多くの人が1回だけ参加しているそう。あとはオーレリーさんの本やサイトを参考にしているのだろう。

オーレリーさんは、5年前にアトリエ・ドゥ・フロシキ(L'atelier du Furoshiki)を立ち上げた。こうして、パリやほかの地域で風呂敷講座をたくさん開いている。日本から輸入した風呂敷の販売もしている。彼女は茶道を習ったときに風呂敷の存在を知って、心を惹かれた。そして自分でいろいろと調べて練習を重ねて、使い方をマスターしたのだそうだ。

フランス語で書かれた風呂敷のハウツー本はとても少ない。そんな中、オーレリーさんは2012年に『Furoshiki L'art d'emballer avec du tissu』という本を出版して、先日は2冊目が出版になった。風呂敷の包み方20以上を紹介した本『LE FUROSHIKI un jeu d'enfant』だ。7歳以上の子どもにも分かるように解説している。子どもだけでなく大人が見ても楽しい。



真剣に取り組む参加者たち。男性や男児も参加している(パリのギメ東洋美術館にて著者撮影)

風呂敷はエコロジカルだ。でもオーレリーさんは単に包装を節約する目的で風呂敷を広めているのではない。「風呂敷はとても価値があります。1枚の布で様々な形を作る創造性や、物を丁寧に包んで丁寧に開封する、日本人の心遣いといったものも、使い方と合わせて、フランスの人たちにぜひ理解してほしいです」とアピールする。

最近、ヨーロッパにはいろいろな和の文化が入ってきて、ヨーロッパ人たちが愛でている。風呂敷も関心を持たれ始めているなんて、面白い。

「フランス人に風呂敷をプレゼントすると、喜ばれることが多い」という日が、いつくるかもしれない。

>> アトリエ・ドゥ・フロシキ(L'atelier du Furoshiki)WEBサイト

>> アトリエ・ドゥ・フロシキ 風呂敷のオンラインショップ



招き猫デザインの大きな風呂敷は、こんな大型バッグにできる



リバーシブル柄の風呂敷をこんなバッグに。モデルは男性。フランスでは布製品は女性が使うものというのが常識だが、オーレリーさんは男性が使ってもいいと提案していきたいそう。ちなみにご主人はいつも買い物に使ったり、旅行時に本を包んだりしている。8歳の息子さんもスポーツ用のバッグとして使ったり、友だちの誕生日プレゼントを包んだりして、風呂敷が生活の一部になっている



アトリエ・ドゥ・フロシキ (L'atelier du Furoshiki) では、秋らしいもみじ柄も販売している。「フランスでは風呂敷を扱う店は限られています。オンラインショップは私のショップ以外にもありますが、店頭販売はパリでだけでしょう。ただし、私が住む地域(フランス北西部)でも見かけたように、風呂敷に似たものは少しずつ市場に出始めています」とオーレリーさん



オーレリー・ル・マレック (Aurélie Le Marec) さんの著書『LE FUROSHIKI un jeu d'enfant』、2014年9月刊



『LE FUROSHIKI un jeu d'enfant』の中身。本書は7歳以上を対象にしたが、「風呂敷の使い方は5歳から覚えられます」とオーレリーさんは言う